

研究・調査報告書

報告書番号	担当
7 8	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Population-level relationships between alcohol consumption measures and Ischemic Heart Disease mortality in U.S. time-series アメリカの一般集団におけるアルコール消費量と虚血性心疾患死亡率との関連について	
執筆者	
Kerr WC, Ye Y	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2007 Nov;31(11):1913-9. Epub 2007 Sep	
キーワード	
心臓病、死亡率、ビール、蒸留酒	
要 旨	
<p>背景： 個人レベルの研究ではアルコール消費量は虚血性心疾患の死亡率への有害な影響と保護的な影響の双方について指摘している。一般集団における関連ではどちらか一方の方向性を示したものの、双方の結果が混在しているものがある。</p> <p>方法： 一般集団における 1 人あたりのアルコール摂取量と、虚血性心疾患死亡率、肝硬変死亡率、喫煙、糖分の摂取について 1950 年から 2002 年に自己回帰移動平均モデル (Autoregressive integrated moving average model、ARIMA モデル) とベクトルエラー補正方法によって測定した。</p> <p>結果： 肝硬変死亡率によって代表される蓄積された過度の飲酒を調整した多変量 ARIMA モデルでは、肝硬変死亡率が虚血性心疾患に正の影響がある一方で、全体の飲酒量で 1 リットルあたり 4% のアルコール摂取は保護的作用があることが分かった。 アルコールの種類ではワインは効果を示さず、蒸留酒は明らかなリスクとなり、ビールは保護的作用が働くという事が有意にみられた。 ベクトルエラー補正方法では全てのアルコールとビール双方において保護的な作用がみられた。</p> <p>まとめ： アルコールと虚血性心疾患死亡率との関連については明確に強調された。 ある種類のアルコール飲料と肝硬変死亡率によって発表されている方向性は、等度のアルコール摂取では保護的作用に影響し、過度の飲酒においては有害な影響を示す結果は個人レベルの研究と一致する結果となった。</p>	